

インターネット活用教育実践コンクール実行委員会賞  
社会教育部門

「子ども樹木博士認定活動におけるインターネットの活用とネットワークの構築」

(社)全国森林レクリエーション協会

URL : <http://www.shinrinreku.jp/kodomo/>

実践のねらい

樹木の名前を覚えると、その樹木が友だちになったような気がする。「子ども樹木博士認定活動」は、森や山を散策しながら、「先生」の案内で木の葉や枝に触れながら名前を覚えてゆき、その直後に名前をあてるテストを受けて、覚えた樹木の数によって、「級」や「段」が認定され参加者全員が認定証をもらえるという、子どもを中心に大人も参加できる、楽しい遊びのプログラムである。昨年、平成13年度は、全国で2262人の子どもたちが、「子ども樹木博士」に認定された。

このプログラムは、子どもたちが樹木に目を向ける、また樹木を「好きになる」きっかけとなり、ひいては環境問題にも興味を持つきっかけとなることをねらいとしている。また、このプログラムを通じて、親子の間の会話やふれあいが促進されること、これも「子ども樹木博士認定活動」のねらいの一つである。

この「子ども樹木博士認定活動」に参加する要件は特にない。誰でも、どのような団体でも、このプログラムを実施することができる。現在も、ほぼ各県の森林・林業団体、環境教育関係のNPO、市町村団体、森林インストラクター会、個人など、さまざまな方が実施されている。平成13年度には、のべ60回全国各地で行われた。

この、「子ども樹木博士」の目的をPRし、情報交流によりプログラムを全国的に展開する推進組織として、子ども樹木博士ネットワーク事務局がある。このネッ

トワーク事務局は、森林にかかわる大学、研究所、団体および個人で構成するボランティア団体「子ども樹木博士認定活動推進協議会」(2000年6月発足)の下に運営されている。

このネットワーク事務局は、インターネットを利用して、次の支援を行っている。

- 子ども樹木博士認定活動の実施機関の登録
- 実施計画書の登録
- 実施報告書の登録
- 開催予定の掲載
- 樹木に詳しいインストラクターの紹介受付
- 「樹木ガイド」・「子ども樹木博士認定証」の注文受付
- 子ども樹木博士認定活動推進協議会会員(支援者)の申込み受付

特徴・工夫・努力した点

従来は、上記の作業を電話やFAXなどを通じて行ってきたが、今回、よりいっそうこの「子ども樹木博士認定活動」を広めるべく、【子どもゆめ基金(独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター)教材開発・普及助成活動】の助成を受け、ホームページを開設した(資料1)。

このホームページは、子どもが開いても興味を持って

資料1



るよう、イラストや、ちょっとしたゲームも設けてある。各所に絵本作家の方による独自のキャラクター「博士くん」「はっばくん」をちりばめ、訪問して楽しいページを目指している。

## 実践内容

この「子ども樹木博士」のホームページを開設したことで、全国での「子ども樹木博士認定活動」の実施状況を、ホームページを訪問して下さった方がリアルタイムで把握できるようになった。

これまでは、年4回の「子ども樹木博士ニュース」(会報)のみでの紹介にとどまっていたが、ホームページ開設により、事務局で現在把握しているすべての実施の予定が、ホームページに掲載され、情報が共有できるようになった。このことで、これから「子ども樹木博士」のプログラムを実施することを検討されている個人・団体の方々にとっても、同じ県内のすでに実施している団体などがわかるので、試しに参加していただくことができるなど、ネットワークの構築に寄与することができた。

また、樹木の質問コーナーとして掲示板を設けており、そこでは子どもたちから、また一般からの質問に、「樹木博士くん」(実際は「森林インストラクター」の事務担当者)が答えている。

また、実施の計画書・報告書の提出や、支援者的な位置付けである「子ども樹木博士認定活動推進協議会」の会員への入会も、ホームページから可能となり、この活動のPRに役立っている。

## 実践結果

このホームページを媒体に、実際「子ども樹木博士認定活動」をはじめて開催した団体がある。以下にご紹介する。

\*\*\*\*\*

ボーイスカウト埼玉連盟 草加第一団ボーイスカウト副長 田中信治様より

平成14年3月17日(日)当団は「子ども樹木博士」の認定会を行いました。

きっかけは偶然

この認定制度のことを知ったのは全くの偶然でした。私が森林保護関係のことを調べるために林野庁のHPにアクセスし、関連サイトを検索している時に「子ども樹木博士」のことを知りました。

- ・認定の対象が子どもであること
- ・子ども達が自主的に樹木の名前を知ること
- ・野外活動をベースに行うこと

これらのことから、当団活動の一環に取り入れようと、計画を立てはじめました。

といっても、私自身、さほど樹木に詳しいわけではなく、仕事の関連で多少の植物の知識があるだけでしたが、地元の「そうか公園」には、全国47都道府県の県木が銘板付きで植栽されていることを思い出し、下調べをしました。

ポケット図鑑を片手に公園内を歩き、どこに何の木

があるか地図に落とし込み、オリジナルの「樹木マップ」を約1ヶ月かけて作成しました。

天気晴朗なれども風強し

今年は記録的とも言える暖かさで、桜が既に開花している「そうか公園」でカブスカウト隊(小学3~5年)13名、ボーイスカウト隊(小学6~中学2年)3名、リーダー(成人)5名の計21人で「子ども樹木博士」に挑戦しました。

当日は汗ばむほどの陽気でしたが、南からの強風が吹き、砂塵の舞い上がる天候で、砂埃にまみれ、『黄な粉もち』のようになりましたが、バイタリティあるスカウト諸士は全く意に介せずでした。最初の観察は全体を3班に分け、私が案内・解説を行いながら、4KMの行程を1時間30分かけて行いました。

観察終了後、予め用意しておいたサンプルで確認を行い、35種類の樹木に対しての試験を行いました。シロダモを「白だも~ん」と記憶したり、ネズミモチをネズミモチと珍回答したりと和気あいあいの中、緊張感を持ち実施することができました。

結果は21名中13名が段以上の好成绩を修めました。思った以上に回答ができずに涙ぐむスカウトもいましたが、全員が級位をとり、認定証を授与され破顔の表情となった時は、主催者として最高の喜びでした。



森を散策しながら木や葉に触れて名前を覚えていく



散策後、枝や葉を見て樹木の名前をあてるテストを受け、「子ども樹木博士」の認定を受ける

取り組みは無量大

基本的なスカウト技能に「記憶・観察」があり、1時間で25種類のもの名前を覚えるゲームを「キムゲーム」と呼んでいます。

また記憶だけでなく、聴覚・触覚・嗅覚によりものを

判別する「ネイチャーキムス」もあります。例えば「目隠しをして樹皮の触覚で樹木の判別」をしたり、「葉のシルエットで樹木の判別」をしたり、アプローチに変化をつけると子ども達の興味も増すのではないのでしょうか。木々の色づく初秋に再度チャレンジしたいと考えています。

\*\*\*\*\*

以上のように、「子ども樹木博士認定活動」が無事に開催され、子どもたちに樹木にふれあうきっかけができたことは、ホームページの波及効果と思われる。

### 考察（今後の課題）

今後、インターネットを通じての学習活動が盛んになるにつれ、この子ども樹木博士ホームページでも新たな取り組みが必要になってくると思われる。

現在検討されている課題は、

- ・このホームページのいっそうの活用。特に、実施報告書の提出は、可能な限りデータで寄せていただくことへの案内。
- ・認定活動に参加する方の男女比や、年齢層比などのデータの蓄積および分析。
- ・子ども樹木博士のための「樹木ガイド」をWeb上で作成し、自分の住んでいる地域の植物の分、必要なだけ樹木ガイドをダウンロードできるデータベース作り。

などが挙げられる。

また、一方で、インターネットに対応していない団体や個人の方々への情報の量の格差を埋めてゆくことも必要かと思われる。